

氏名	羽畑正孝
学位の種類	修士(看護学)
学位記番号	修士第100号
学位授与年月日	平成20年3月25日
学位論文題目	溺水による低酸素性脳症児の母親の心理的プロセス

論文内容要旨

※整理番号	104	(ふりがな) 氏名	はばた まさたか 羽畑 正孝
修士論文題目	溺水による低酸素性脳症児の母親の心理的プロセス		
<p>【研究目的】 溺水による低酸素性脳症となった児の母親の入院から現在までの闘病過程とその心理的プロセスを明らかにし、母親に対する医療者の支援のあり方を検討することである。</p> <p>【研究方法】 溺水による低酸素性脳症児の母親4名を対象に半構成的インタビューを実施した。調査対象者には、独自のインタビューガイドを用いたインタビューおよび児に関係する属性を回答してもらった。インタビュー内容に関しては質的帰納的方法にて児の出来事から現在の生活までの体験から母親の児に対する思いという視点から分析した。</p> <p>【結果】 インタビュー内容から、溺水による低酸素性脳症児の母親の心理として【突然の出来事による混沌とした状態】【児の病状回復への願望】【自分しか守ってあげられない】【児とともに過ごす生活へのチャレンジ】【生活の再構築の可能性にかける】【出来事が残したしこり】【母親にとって自分を支えてくれる人】の7つの大カテゴリーが抽出され、大カテゴリーは23の中カテゴリーから構成されていた。また、溺水による低酸素性脳症児の母親の思いに関する7つの大カテゴリーは、互いに独立して存在するのではなく、それぞれが前後または横の文脈をもちながら存在していた。</p> <p>【考察】 母親は、児の【突然の出来事による混沌とした状態】を抜け出すと、【児の病状回復への願望】を持ち続け、自分で頑張っって児を看ていこうという【自分しか守ってあげられない】という思いで【児とともに過ごす生活へのチャレンジ】という前向きな姿勢をもち、【生活の再構築の可能性にかけて】いた。また、母親が【生活の再構築の可能性にかける】ことに向けて勇気を与えてくれた夫や親類、友人や看護師などの医療従事者、同じ境遇の人によって支えられていた。しかし、母親は、患者会のような語らいの場がなく、同じ思いを分かち合うことができないまま、児に起こった溺水による【出来事が残したしこり】を潜在的に持ち続けていた。したがって、看護師は、母親に対して児の病状回復への願望をもち続けている思いを尊重しながら関わり、また、母親の語らいの場を提供していくことが必要であると考えられた。</p> <p>【総括】 溺水による低酸素性脳症児の母親は、児の病状回復を願い続け、一方で、溺水という出来事に対して、出来事が残したしこりも持ち続けながら生活していた。溺水のような不慮の事故の場合、母親は周囲から事故原因が自分にあるという責めを受けていると感じており、社会の目を気にしながら生活している。これらのことから、母親の、児の病状回復への願望などの思いを受け止めることが必要である。また、溺水のような不慮の事故により中途障害となった児の母親同士の語らいや仲間作り、情報交換の場を提供することや、地域の人たちの子育て協力あるいは安全・安楽に子どもを預けることができるシステムのさらなる充実を図り、母親を含めた家族の支援をも包括した、継続的なサポート体制を確立していく必要がある。</p>			

- (備考) 1. 研究の目的・方法・結果・考察・総括の順に記載すること。(1200字程度)
 2. ※印の欄には記入しないこと。